
先駆の大和

財前太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

先駆の大和

【Nコード】

N4166A

【作者名】

財前太郎

【あらすじ】

真珠湾を火蓋に、大東亜戦争（太平洋戦争）が始まった！！出だし好調な日本だったが、アメリカの巨大な武力には歯がたたなかつた。そんな時、立ちあがったのが、日本海軍だった。空中を制した者が勝利する時代に、日露戦争の栄光を追い求め、日本は巨大戦艦を次々と繰り出した。大和も、そのうちの一つである……。大和に乗艦した人々の心情を描いた、涙の戦争ドラマ！！

開戦

ザカザカしたラジオの音声から、開戦の情報が流れた。

栄男の手を握りしめていた勲も、万歳！と叫び、大喜びしたのだ。
った。

その途端、辺り一面が、万歳！の声であふれた。歓声が飛び交い、暗い気分になど鳴る者は、一人としていなかった。

栄男もその一人である。

「あつ、やべえ……。忘れてた」

栄男は、万歳と叫び続ける勲の手を無理矢理引っ張った。

「痛えよ・・兄ちゃん」

「いいから。父さんと母さんがまってるぞ」

しかし、尚も勲が抵抗するので、栄男はぐぐつと手を握りしめてやった。

「あうっ！」

と勲は声を漏らし、涙目を浮かべて栄男に続いていった。

家には、母親の登美子が料理を作って待っていた。

「おかえり」

「ただいま」

と、二人は短く言って、それぞれおかずのジャガイモに手を伸ばした。

「こらっ！二人とも」

二人は勢いよく口に放り込み、ハフハフ…とやってみせた。

「熱い、熱い！」

開戦を重く考えていなかったこの二人が、後にどうなるか、誰も知らなかった。

赤紙

戦況が途端に苦しくなったのは、ミッドウエー海戦からだった。大日本帝国海軍は、アメリカ軍に初めて破れたのだ。

しかし、日本の人々は知る由もなく、日本の戦況は優勢だと考えていた。アメリカはもうすぐ降伏し、日本は軍事大国として栄えるだろう・・・と。

ちょうど、その時期だった。栄男の父・正信に、赤紙が届いた。登美子は、正直めまいがするほど驚いたが、日本を信じていた。

(日本軍にいれば・・・死ぬ事なんてない・・・)
しかし、子供達にだけは、戦争に行つて欲しくないと思った。女がいなかったので、怖れも十分あったが、一人は絶対いやだったのだ。

父の出発の日、子供達は目を輝かせて、軍服を眺めた。

「かつこいいー、かつこいいーなあ。僕も軍人さんになりてえ」
勲はそう言った時、登美子の顔が急に強ばった。栄男はそれがどうしてか分からなかったが、何となく察することはできた。

しかし、栄男は悟った。登美子の思いを、必ず裏切ることになるだろう。この戦渦に巻き込まれるだろう。どう逃げようと、どうしようもないことである。

第一に、彼は軍人になることが夢だったのだ。小さい頃から、軍人はかつこいいいと思っていた。そして、父の軍服姿を見て、心の中で決心したのだった。

(軍人になってみせる・・・)

日本は最強の海軍の持ち主だ。そこに入って、アメリカを負かしてやる！

彼の心意気は、相当なものだった。が、母の寂しそうな視線は、ずっと変わらないままだった。

(……でもやっぱり、軍人になりたい)

あちこちで、日の丸が靡いていた。

父の死（前書き）

栄男の父・正信に、赤紙が届いた。
正信は、戦場へ向かうのだが……。

父の死

「畜生ッ！」

正信は右肩を撃たれた。おびただしい量の血が、どつとあふれ出た。

「アメ公めえ……！！！」

彼の勢いは、負け続ける日本軍に遡るように、増していった。

「ぬおおおおお！」

銃を一発撃てば、敵は一人倒れる。が、仲間も一人死ぬ。

戦友は爆風に足をもぎ取られた。

血しぶきの中、足のないままグルリグルリと廻った。

やがて、静かに倒れた。

静寂は一瞬だ。また敵の爆撃は始まった。

「くそうっ！負けてたまるかッ！」

正信は勢いよく飛び出し、銃声を鳴らし続けた。

しかし、後ろではまた、一人死んだ。

心臓から足の底まで、銃弾が貫いている。

声を上げて、倒れる者もいる。目玉は焼けていた。

まだ若い兵士は、「お母あさん……！」と叫び、倒れた。胴体の形はほとんど無かった。

正信は思うのである。

（家族が家で待ってるが、ここで死ななければ、俺は戦友にどうやって詫びれば良い？どうも詫びることは出来ない。俺がここで死ねば、日本はきつと……）

手榴弾を握った。

倒れた仲間の者も、拾い集めた。
すつと大きく息を吸って、勢いよく飛び出した。

疾風のごとく彼は駆けた。

銃弾が体に食い込む。

痛さなど、無い。

ただ、自分の目の前には、死の道が広がっていた。

(栄男……栄男……栄男……)

心の中で、叫び続けた。長男のことを。

もう自分は帰れない。日本のために散るのだ。

日本の勝利の、先駆けとなるのだ……と。

「ぬおおおお！万歳！」

ドンツと大音がし、大地は砕け散った。

彼は、先駆者となったのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4166a/>

先駆の大和

2010年10月10日01時19分発行